豊田工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語会話A

科目基礎情報

科目番号	01131	科目区分	一般 / 必履修，選択必修（英）
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	機械工学科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「ENGLISH FIRSTHAND 1」 (ISBN 9789813130227) (Pearson) 「めざせ１００万語！読書記録手帳」（コスモピア）、多読・多聴用教材（CALL教室および図書館備えつけのもの）		
担当教員	M. Bodell,J. Ahern,R. Fontaine,弘山 貞夫		

到達目標

(ア)文における基本的なイントネーションを理解し、シャドーイングや音読をすることができる。
(イ)相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できる。
(ウ)平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	文における基本的なイントネーションを正しく理解し、正確にシャドーイングや音読ができる。	文における基本的なイントネーションを理解し、シャドーイングや音読ができる。	文における基本的なイントネーションが理解できず、シャドーイングや音読ができない。
評価項目(イ)	相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて正確に理解できる。	相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できる。	相手が自分や身近なことについて基本的な表現を用いて話す場合、その内容を聴いて理解できない。
評価項目(ウ)	平易な物語文などを読み、その概要を正確に把握できる。	平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	平易な物語文などを読み、その概要が把握できない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	本講座は、次の２部構成となる：A＝外国人講師による少人数グループ（15名程度）での英会話の授業（45分）、B＝英文の多読、多聴によりリスニング力、スピーキング力、語彙力を育成する授業（45分）。Aにおいては、外国人講師とアクティブな会話演習を行うとともに、毎回課される課題を通して「英語で考える（Thinking in English）」力を養う。Bにおいては、多読、多聴によりAの授業で必要とされるリスニング力・語彙力を育成するとともに、シャドーイング（聞こえてくる英語を間髪をいれずに繰り返すこと）を通してスピーキング力を養成する。
授業の進め方・方法	
注意点	外国人講師の授業においてはネームカードを忘れないようにすること。多読・多聴活動は、授業外にも図書館を利用して自律的に行うこと。定期試験は授業内に実施する。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	A：会話演習１（It's nice to meet you） B：オリエンテーション（授業の進め方、学習の仕方）	会話演習１ができる。
		2週	A：会話演習２（It's nice to meet you） B：多読・多聴活動	会話演習２ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。
		3週	A：会話演習３（Who are they talking about?） B：多読・多聴活動	会話演習３ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。
		4週	A：会話演習４（Who are they talking about?） B：多読・多聴活動	会話演習４ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。
		5週	A：会話演習５（When do you start?） B：多読・多聴活動	会話演習５ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。
		6週	A：会話演習６（When do you start?） B：多読・多聴活動	会話演習６ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。
		7週	A：会話演習７（Where does this go?.） B：多読・多聴活動、シャドーイング演習	会話演習７ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
		8週	A：会話演習８(Where does this go?.) B：多読・多聴活動、シャドーイング演習	会話演習８ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
	2ndQ	9週	A：会話演習９（How do I get there?） B：多読・多聴活動、シャドーイング演習	会話演習９ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
		10週	A：会話演習１０（How do I get there?） B：多読・多聴活動、シャドーイング演習	会話演習１０ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
		11週	A：会話演習１１(How do I get there?) B：多読・多聴活動、シャドーイング演習	会話演習１１ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
		12週	A：会話演習１２（What happened?） B：シャドーイング演習	会話演習１２ができる。指定された図書で多読・多聴活動とシャドーイング演習ができる。
		13週	A：会話演習１３（What happened? ） B：シャドーイング発表	会話演習１３ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。シャドーイング発表ができる。
		14週	A：会話演習１４（What happened ?） B：シャドーイング発表	会話演習１４ができる。指定された図書で多読・多聴活動ができる。シャドーイング発表ができる。
		15週	A：前学期のまとめ　　B:前学期のまとめ	前学期の内容が理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	

評価割合

	定期試験	課題	口頭発表	合計
総合評価割合	50	20	30	100
基礎的能力	50	20	30	100